

平成28年度調査研究 研究紀要

「わかる授業」を目指す校内研修の進め方

「わかる授業」で子どもたちの力を伸ばそう！



平成29年3月
久留米市教育センター

本書の使い方

本書では、「わかる授業」について理解を深めるための4つの研修プログラムと「わかる授業」に向けた授業研究の効果的な進め方を示しています。それぞれの活用方法は、次のようになっています。

<「わかる授業」について理解を深める研修プログラム>

- 研修プログラム① 「わかる授業」について考えよう！
- 研修プログラム② 「わかることの意味」について考えよう！
- 研修プログラム③ 「導入場面のポイント」について考えよう！
- 研修プログラム④ 「交流場面のポイント」について考えよう！

本書には、上記の4つの研修プログラムについて、「研修要項」「進行要領」「研修の実際」を示しています。研修プログラムの概要を把握する際に役立ててください。

特に、「進行要領」には、進行役の発言例や指示を示していますので、誰でも簡単に研修プログラムを実施することができます。

ただし、研修プログラムを実施するためには、研修教材として「動画」が必要になります。「動画」については、下記の場所に保存しています。

動画の保存先：「教材用フォルダ」→「研修教材」→「研修パッケージ」



〔サスティックキー〕

サスティックキーを使って、フォルダにアクセスしてください。



<「わかる授業」に向けた授業研究の効果的な進め方>

「わかる授業」に向けた授業研究の効果的な進め方を理解できるように、下記の4つの項目に分けて示しています。

- Part 1 「わかる授業」を目指す授業研究の進め方
- Part 2 模擬授業を生かした事前検討会
- Part 3 授業参観シートを活用した授業参観
- Part 4 ワークショップ型の授業整理会

Part 1 では、「わかる授業」を目指す授業研究についての考え方を示しています。Part 2～Part 4 では、授業研究の各場面における進め方のポイントを具体的に示しています。これらを参考にしながら、各学校における授業研究の進め方を工夫していただければと思います。

〔研修プログラム①〕

「わかる授業」について考えよう！

～児童生徒の学習活動への参加と理解を目指して～

1 研修のねらい

ねらい	児童生徒が学習活動に参加し、学習内容をよりよく理解する授業づくりについての理解を深める。
-----	--

2 所要時間と準備物

所要時間	40分	準備物	<ul style="list-style-type: none">・ パソコン・ 大型テレビまたはプロジェクター・ 動画①、動画②・ 付箋紙、台紙・ マジック・ 振り返り用紙
------	-----	-----	---

3 研修の流れ

時間	活動内容
5分	研修オリエンテーション ・ 研修の目的と進め方を確認する。
20分	活動1 「『わかる授業』で大切なことについて話し合おう！」 ・ 動画①を視聴し、児童生徒が学習活動によりよく参加し、理解するための授業づくりのポイントについて話し合う。
10分	活動2 「『わかる授業』で大切なことを確かめよう！」 ・ 動画②を視聴し、児童生徒が学習活動によりよく参加し、理解するための授業づくりのポイントを確かめる。
5分	振り返り ・ 研修を通して学んだことを「振り返り用紙」に記入する。

4 研修会の進行要領

	発言内容例
オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・この研修は、久留米市の第三期教育改革プランの重点である「わかる授業」についての理解を深めるための研修です。この研修では、特に、児童生徒が学習活動に参加し、学習内容をよりよく理解する授業づくりについての理解を深めることをねらいとしています。 ・そのために、活動1では、先生方がイメージする「わかる授業」で大切なことについて話し合ってください。活動2では、動画を視聴し、児童生徒が学習活動によりよく参加し理解するための授業づくりのポイントを確認します。
活動1	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、動画を視聴していただきます。 ⇒動画①を再生する。 ・それでは、まず、児童生徒が学習活動によりよく参加し理解できる授業づくりのポイントについて、考えを付箋紙に書いてください。 ⇒個人で考えてもらおう。 ・これから、グループで話し合ってください。まず、付箋紙に書いたことを出し合います。出し合ったら、お互いの考えに質問し合っ、共通理解を図ります。共通理解ができたなら、付箋紙を分類・整理し、見出しを付けてください。 ⇒グループで話し合ってもらおう。 ・では、各グループで話し合ったことを交流します。 ⇒グループで話し合ったことを発表してもらおう。 ・これで活動1を終わります。
活動2	<ul style="list-style-type: none"> ・活動2では、動画を視聴し、「わかる授業」についての理解を深めていただきます。先程、話し合われたことと比べながら、解説を聞いてください。 ⇒動画②を再生する。 ・いかがだったでしょうか？先生方が話し合われたことと似ている点も多かったのではないかと思います。これで活動2を終わります。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・最後に振り返りを行います。この研修を通して学んだこと、これからやってみようと思うことを「振り返り用紙」に記入してください。 ・以上で研修を終わります。

5 研修の実際

(1) 研修の概要

- ・ 学校種……………小学校
- ・ 対象者……………参加を希望した教員
- ・ 研修区分……………若手教員のための校内研修会
- ・ 研修会場……………教室

(2) 活動の様子

■ 活動1 『わかる授業』で大切なことについて話し合おう！

動画を視聴した後、「わかる授業」で大切なことについて話し合いました。



■ 活動2 『わかる授業』で大切なことを確かめよう！

動画を視聴し、「わかる授業」で大切なことについて理解を深めました。



児童が何をすればよいのか確実に把握できるような発問や指示をすることも大切だな。

やはり、授業のねらいをはっきりさせ、めあてからまとめまでがつながるように授業を構成することが大切だな。

(3) 参加した先生方の感想

- ・ 本時のねらいや主眼を焦点化し、めあてからまとめまでのつながりを意識した授業を行うことで、児童がスムーズに学習活動に取り組み、理解を深めることができると感じました。
- ・ 今回の研修を受けて、「わかる授業」というものが具体的にどのような授業なのか分かりました。今後は、児童が「わかる」とはどういうことかを知りたいと思いました。

〔研修プログラム②〕

「わかることの意味」について考えよう！

～児童生徒の深い理解を促す授業を目指して～

1 研修のねらい

ねらい	わかることの意味や児童生徒の深い理解を促すための学習活動についての考えを深める。
-----	--

2 所要時間と準備物

所要時間	40分	準備物	<ul style="list-style-type: none">・ パソコン・ 大型テレビまたはプロジェクター・ 動画③・ 付箋紙、台紙・ マジック・ 振り返り用紙
------	-----	-----	---

3 研修の流れ

時間	活動内容
5分	研修オリエンテーション ・ 研修の目的と進め方を確認する。
10分	活動1 「『わかることの意味』について理解しよう！」 ・ 動画③を視聴し、わかるとはどういうことなのか、わかることの意味についての理解を深める。
20分	活動2 「理解を深めるための学習活動について話し合おう！」 ・ 児童生徒の深い理解を促すための学習活動について話し合う。
5分	振り返り ・ 研修を通して学んだことを「振り返り用紙」に記入する。

4 研修会の進行要領

	発言内容例
オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・この研修は、久留米市の第三期教育改革プランの重点である「わかる授業」についての理解を深めるための研修です。この研修では、特に、わかることの意味や児童生徒の深い理解を促すための学習活動についての考えを深めることをねらいとしています。 ・そのために、活動1では、動画を視聴し、わかることの意味について考えていただきます。活動2では、児童生徒の深い理解を促すための学習活動について話し合ってください。
活動1	<ul style="list-style-type: none"> ・活動1では、動画を視聴し、わかることの意味について考えていただきます。では、動画を再生しますので、ご覧ください。 ⇒動画③を再生する。 ・これで活動1を終わります。
活動2	<ul style="list-style-type: none"> ・活動2では、各教科等の授業で児童生徒の深い理解を促すためには、どのような学習活動に取り組ませる必要があるのか話し合ってください。 ・それでは、まず、児童生徒の深い理解を促すためには、どのような学習活動に取り組ませる必要があるのか、各自で考えていただきます。自分が担当している教科では、具体的にどんな学習活動に取り組ませる必要があると思うか、付箋紙に書いてください。 ⇒個人で考えてもらう。 ・これから、グループで話し合ってください。まず、付箋紙に書いたことを出し合います。出し合ったら、お互いの考えに質問し合って、共通理解を図ります。共通理解ができれば、付箋紙を分類・整理し、見出しを付けてください。 ⇒グループで話し合ってもらおう。 ・では、各グループで話し合ったことを交流します。 ⇒グループで話し合ったことを発表してもらおう。 ・これで活動2を終わります。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・最後に振り返りを行います。この研修を通して学んだこと、これからやってみようと思うことを「振り返り用紙」に記入してください。 ・以上で研修を終わります。

5 研修の実際

(1) 研修の概要

- ・学校種……………小学校
- ・対象者……………参加を希望した教員
- ・研修区分……………自主研修会
- ・研修会場……………会議室

(2) 活動の様子

■ 活動1 「『わかることの意味』について理解しよう！」

動画を視聴し、わかるとはどういうことかについて考えました。



「わかる」とは、どういうことかなんて、今まで考えたことがなかったな。

子供たちが理解を深め、本当にわかったという状態になるためには、学習活動を工夫していく必要があるな。

■ 活動2 「理解を深めるための学習活動について話し合おう！」

各教科等の授業で児童生徒の深い理解を促すためには、どのような学習活動に取り組ませる必要があるのか話し合いました。



「なぜそうなるのか？」と意味を考えさせたり、説明させたりすることが大切ではないかな。

なぜそうなるのかをきちんと理解させるためには、具体物を使って考えさせることが有効ではないかな。

(3) 参加した先生方の感想

- ・「わかる」ということについて改めて考えさせられました。これまでを振り返ると、「知っている・できる」レベルにとどまることが多かったなと反省しました。
- ・「わかる授業」にするためには、なぜそうなるのかを理解させることが大切だと考えました。そのためには、具体物を使って考えさせたり、別の問題に当てはめて考えさせたりすることが大切だと感じました。

〔研修プログラム③〕

「導入場面のポイント」について考えよう！

1 研修のねらい

ねらい	児童生徒の主体的な学びにつながる「めあて」の条件や導入場面における「めあて」のつかませ方についての理解を深める。
-----	--

2 所要時間と準備物

所要時間	40分	準備物	<ul style="list-style-type: none">・パソコン・大型テレビまたはプロジェクター・動画④、動画⑤・付箋紙・コピー用紙（A3）・マジック・振り返り用紙
------	-----	-----	---

3 研修の流れ

時間	活動内容
5分	研修オリエンテーション ・研修の目的と進め方を確認する。
20分	活動1 「『導入場面のポイント』について話し合おう！」 ・動画④を視聴し、導入場面のポイントについて話し合う。
10分	活動2 「『導入場面のポイント』を確かめよう！」 ・動画⑤を視聴し、児童生徒の主体的な学びにつながる「めあて」の条件や「めあて」のつかませ方を理解する。
5分	振り返り ・研修を通して学んだことを「振り返り用紙」に記入する。

4 研修会の進行要領

	発言内容例
オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・この研修は、久留米市の第三期教育改革プランの重点である「わかる授業」についての理解を深めるための研修です。この研修では、特に、導入場面のポイントについての理解を深めることをねらいとしています。 ・そのために、活動1では、動画を視聴し、「導入場面のポイント」について話し合ってください。活動2では、動画を視聴し、児童生徒の主体的な学びにつながる「導入場面のポイント」についての理解を深めていただきます。
活動1	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、動画を視聴していただきます。 ⇒動画④を再生する。 ・それでは、まず、児童生徒の主体的な学びにつながる「めあて」の条件と「めあて」のつかませ方について、考えを付箋紙に書いてください。 ⇒個人で考えてもらおう。 ・これから、グループで話し合ってください。まず、付箋紙に書いたことを出し合います。出し合ったら、お互いの考えに質問し合って、共通理解を図ります。共通理解ができたなら、付箋紙を分類・整理し、見出しを付けてください。 ⇒グループで話し合ってもらおう。 ・では、各グループで話し合ったことを交流します。 ⇒グループで話し合ったことを発表してもらおう。 ・これで活動1を終わります。
活動2	<ul style="list-style-type: none"> ・活動2では、動画を視聴し、児童生徒の主体的な学びにつながる「導入場面のポイント」についての理解を深めていただきます。先程、話し合われたことと比べながら、解説を聞いてください。 ⇒動画⑤を再生する。 ・いかがだったでしょうか？先生方が話し合われたことと似ている点も多かったのではないかと思います。これで活動2を終わります。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・最後に振り返りを行います。この研修を通して学んだこと、これからやってみようと思うことを「振り返り用紙」に記入してください。 ・以上で研修を終わります。

5 研修の実際

(1) 研修の概要

- ・校種……………小学校
- ・対象者……………参加を希望した教員
- ・研修区分……………若手教員のための校内研修会
- ・研修会場……………図書室

(2) 活動の様子

■ 活動1 「『導入場面のポイント』について話し合おう！」

動画を視聴した後、「どんなめあてを設定すればよいのか」「どのようにめあてをつかませればよいのか」について話し合いました。



■ 活動2 「『導入場面のポイント』を確かめよう！」

動画を視聴し、「導入場面のポイント」についての理解を深めました。



内容分析に基づいてめあてを設定したり、前時学習と比較しながらめあてをつかませたりすることが大切なんだな。

前時学習で生まれた次の学習への期待感からめあてをつかませることもできるんだな。

(3) 参加した先生方の感想

- ・めあてを設定する際には、内容分析が大切だということがよく分かりました。動画の中の「追究する方向の焦点化」という言葉が心に残りました。焦点化されためあてが例示されていたので、分かりやすかったです。
- ・教科や内容に適しためあてのつかませ方があると分かりました。やはり、教材分析が重要だと感じました。交流のさせ方についても、めあての設定と同様に難しさを感じているので、研修してみたいです。

〔研修プログラム④〕

「交流場面のポイント」について考えよう！

1 研修のねらい

ねらい	交流場面において、児童生徒の対話的な学び、深い学びを生み出すための話し合い活動の仕組み方について理解を深める。
-----	---

2 所要時間と準備物

所要時間	40分	準備物	<ul style="list-style-type: none">・パソコン・大型テレビまたはプロジェクター・動画⑥、動画⑦・付箋紙・コピー用紙（A3）・マジック・振り返り用紙
------	-----	-----	---

3 研修の流れ

時間	活動内容
5分	研修オリエンテーション ・研修の目的と進め方を確認する。
20分	活動1 「『交流場面のポイント』について話し合おう！」 ・動画⑥を視聴し、児童生徒が学習活動によりよく参加し理解するための交流場面のポイントについて話し合う。
10分	活動2 「『交流場面のポイント』について確かめよう！」 ・動画⑦を視聴し、児童生徒が学習活動によりよく参加し理解するための交流場面のポイントを確かめる。
5分	振り返り ・研修を通して学んだことを「振り返り用紙」に記入する。

4 研修会の進行要領

発言内容例	
オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・この研修は、久留米市の第三期教育改革プランの重点である「わかる授業」についての理解を深めるための研修です。この研修では、特に、交流場面のポイントについての理解を深めることをねらいとしています。 ・そのために、活動1では、先生方がイメージする交流場面で大切なことについて話し合ってください。活動2では、動画を視聴し、「交流場面のポイント」を確かめます。
活動1	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、動画を視聴していただきます。 ⇒動画⑥を再生する。 ・それでは、まず、交流場面で大切なことについて、考えを付箋紙に書いてください。 ⇒個人で考えてもらおう。 ・これから、グループで話し合ってください。まず、付箋紙に書いたことを出し合います。出し合ったら、お互いの考えに質問し合って、共通理解を図ります。共通理解ができれば、付箋紙を分類・整理し、見出しを付けてください。 ⇒グループで話し合ってもらおう。 ・では、各グループで話し合ったことを交流します。 ⇒グループで話し合ったことを発表してもらおう。 ・これで活動1を終わります。
活動2	<ul style="list-style-type: none"> ・活動2では、動画を視聴し、「交流場面のポイント」についての理解を深めていただきます。先程、話し合われたことと比べながら、解説を聞いてください。 ⇒動画⑦を再生する。 ・いかがだったでしょうか？先生方が話し合われたことと似ている点も多かったのではないかと思います。これで活動2を終わります。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・最後に振り返りを行います。この研修を通して学んだこと、これからやってみようと思うことを「振り返り用紙」に記入してください。 ・以上で研修を終わります。

5 研修の実際

(1) 研修の概要

- ・ 学校種……………中学校
- ・ 対象者……………参加を希望した教員
- ・ 研修区分……………校内研修会
- ・ 研修会場……………図書室

(2) 活動の様子

■ 活動1 『交流場面のポイント』について話し合おう！

動画を視聴した後、「交流場面のポイント」について話し合いました。



子供たちが何について話し合うのか、きちんとわかるような課題を設定しないとイケないよね。

活発な交流活動にするためには、意図的に小集団を作ったほうがいいかもしれないな。

■ 活動2 『交流場面のポイント』について確かめよう！

動画を視聴し、「交流場面のポイント」について理解を深めました。



動画を視聴して、教師の評価を子供たちが気にしているという点では、他の生徒の反応も気にしているのかなと思いました。そのためにも、子供たちが発表してよかったと思える反応を教師がすることも、改めて大事だなと思いました。

(3) 参加した先生方の感想

- ・ 話し合いの課題を設定する際に、ズレを意識させること、「なぜだろう」「不思議だな」と感じさせることができていなかったように思います。生徒がズレを意識できる課題を設定したいと思いました。
- ・ 「思考ツール」の種類や使用法などについて学びたいと思いました。そして、授業に思考ツールを活用して、子供たちの思考を深めるような話し合い活動を仕組みたいです。

「わかる授業」を目指す授業研究の進め方

授業改善サイクルを踏まえた授業研究

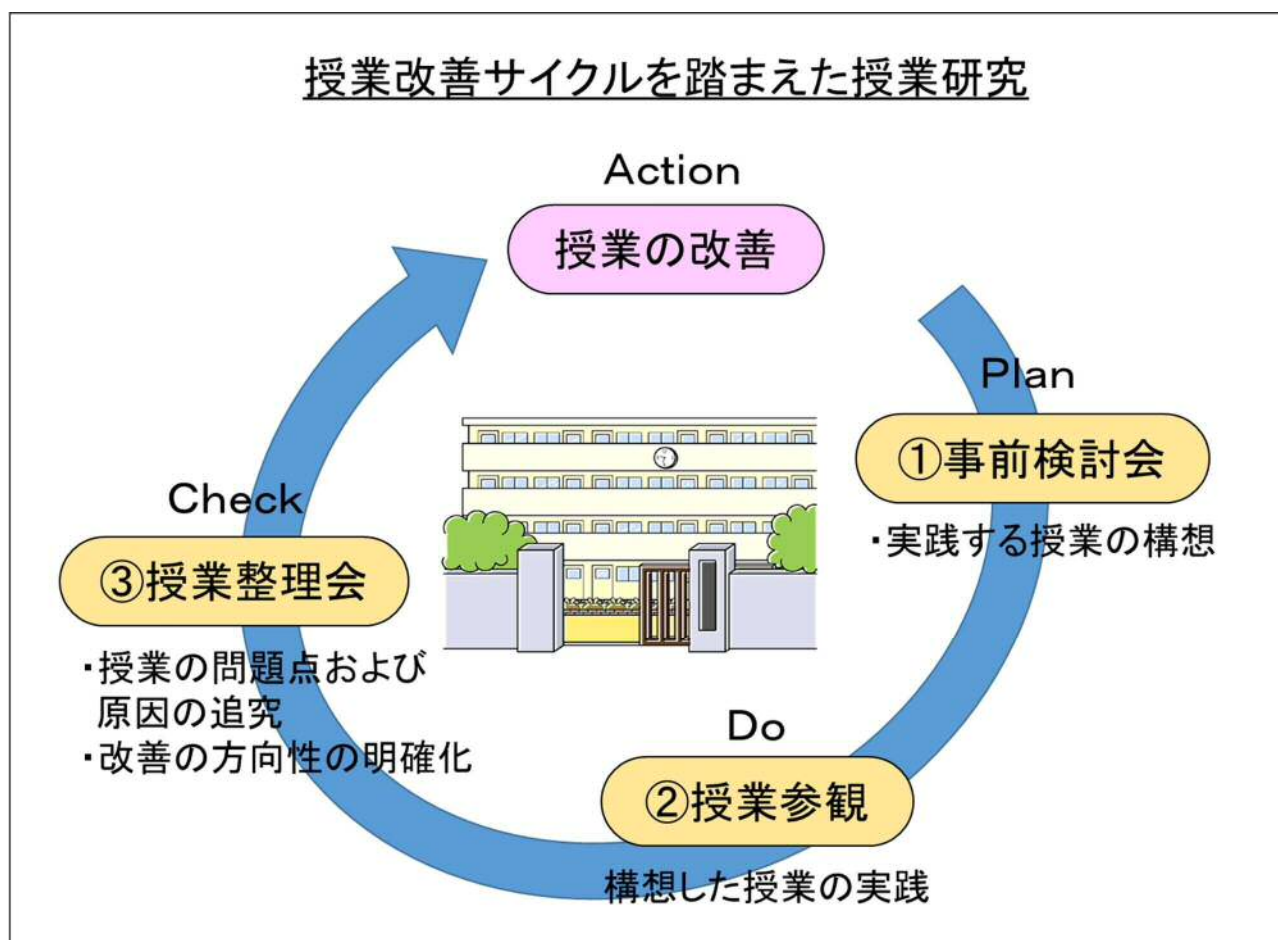
各学校で「わかる授業」を展開するためには、授業改善サイクルを踏まえて授業研究を実施し、日々の授業改善と授業力の向上を図ることが大切になります。

授業改善サイクルを踏まえた授業研究は、通常の授業研究と同様に、「①事前検討会」「②授業参観」「③授業整理会」という流れで進めていきます。

「①事前検討会」では、授業者と参加者で意見を交換し、実践する授業のねらいを明確にしたり、ねらいにせまるための学習活動や手立てを構築したりします。

「②授業参観」では、授業者が構想に基づいて授業を実践するとともに参加者が児童生徒の姿から授業の成果と課題を分析しながら参観します。

「③授業整理会」では、授業者と参加者で授業の成果と課題について話し合います。その際、授業の問題点や原因を追究し、改善の方向性を明確にすることが特に重要になります。



「わかる授業」を目指す授業研究の効果的な進め方

授業研究に取り組む上で、次のような課題を感じている方も多いと思います。

授業研究に取り組む上での課題（例）

- ・ 発言者に偏りがあり、全員が主体的に参加しているとは言えない。
- ・ 様々な視点から意見が飛び交い、話し合いが深まらない。
- ・ 様々な授業の課題が出されるが、改善の具体的な方向性が示されない。
- ・ 抽象的な言葉が飛び交い、共通理解がないままに話し合いが進む。など

このような課題を解消し、授業研究を効果的に進めるためには、次の3つの視点から工夫する必要があります。

〔焦点化〕・・・ポイントを絞って授業を参観したり話し合ったりする。

〔具体化〕・・・具体的な児童生徒の姿や学習活動を基に話し合う。

〔活性化〕・・・参加者同士のコミュニケーションを活発にする。

この3つの視点から授業研究の進め方を再構成したのが、下に示す効果的な授業研究の進め方です。この授業研究は、「模擬授業を生かした事前検討会」「授業参観シートを活用した授業参観」「ワークショップ型の授業整理会」で構成しており、参加者が、授業研究に意欲的、協働的に参加し、授業改善に向けたよりよい考えを生み出すことができるようになっていきます。次ページ以降を参考にしながら、実践してみてください。

効果的な授業研究の進め方

模擬授業を生かした
事前検討会

<事前検討会>



模擬授業による検討

授業参観シートを
活用した授業参観

<授業参観>



授業参観シートの活用

ワークショップ型の
授業整理会

<授業整理会>



ワークショップ型

模擬授業を生かした事前検討会

1 期待できる効果

効果	<ul style="list-style-type: none"> ・教材や教具、学習ノート、発問など具体的に授業をイメージしながら授業の構想を検討することができる。 ・授業者は、参加者の反応を基に、実際の子供の反応や思考の流れを想定しながら授業の構想を修正することができる。
----	---

2 準備物

準備物	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で用いる教具（学習ノート、資料 等） ・板書計画 ・学習指導略案（本時のねらい及び、大まかな発問計画 等） ※ 学習指導略案は、「子供役」以外の参加者に配布する
-----	--

3 進め方

手 順	時間	内 容 ・ 留 意 点
オリエン テーション	5分	① 模擬授業のねらい、目的の確認 ② 授業者からの確認（前時までの既習内容 等） ③ 役割分担（子供役、分析役、授業全体観察 等）の確認
模擬授業	20分	※研究主題・副題に応じて、ポイントを絞った模擬授業を行う。 【授業者】 ・各段階の活動のねらいを達成するために、具体的な指示・発問、板書を行う。 【子供役】 ・授業者の指示や発問に対して、反応を素直に表現する。 【分析役】（研究推進部） ・ねらい達成のための手だての有効性に絞って参観する。 【授業全体】（教科主任、管理職） ・教科の本質、教科の特性という視点から参観する。
協 議	35分	① 授業者からの説明（3分） ② 参加者からの質問（5分） ③ グループ討議（20分） ・各役割に沿って授業の課題と改善策を中心に検討する。 ④ まとめ（5分） ・教科主任や管理職が、全体的な助言をする。 ⑤ 確認（2分） ・授業研究の本時に向けて、課題や改善策などを確認する。

【オリエンテーションの進め方】

まず、進行役の教師が、今回の模擬授業のねらいと大まかな流れ、参加者の役割を確認します。次に、授業者が、単元計画と本時の主眼、導入の活動の大まかな説明をします。その際、模擬授業を円滑なものにするために、子供達が前時までに身につけている知識・技能などを的確に伝えるとともに、本時の中心場面までの展開を参加者全員で共通理解することが重要です。



「本時の授業は、中学校2学年の比較級・最上級についての学習です。」

【場面】

「子供達は、前時までに、-er を使って比較したり、-est を使って最も程度が高いものを表すことを学習しています。」

【既習内容】

「本時では、範囲を表す in と of の使い分けを理解し、-est を使って、『最も～だ。』と説明できるようにすることをねらいとしています。」

【本時のねらい】

「今日は、・・・の場面を中心に模擬授業を行いますので、・・・の状態からスタートします。」

【中心場面の確認】

【模擬授業（中心活動場面）の進め方】

本時の中心場面に絞って模擬授業を行います。子供役の教師は、前時までの既習内容や中心場面までの流れを理解した上で参加することが重要です。また、分析役の教師は、研究推進や教科主任（もしくは管理職）という自分の立場を意識して参観する必要があります。研究推進の担当者は、自校の研究主題と照らして、学習活動や手だての有効性を見取ります。教科主任は、教科等の本質と照らして学習活動のねらいや手だての妥当性を検討しながら参観していきます。



【分析役】

ねらいの妥当性、めあての設定、ねらいを達成するための手だての有効性に絞って、模擬授業の様子を観察します。

【子供役】

児童生徒の視点で参観し、授業者の発問、指示、板書がわかり易いか、わかり難いか、素直に反応を表現します。

【協議の進め方】

効率的に協議を進めるためには、下記のように自分の役割を意識して積極的に意見を

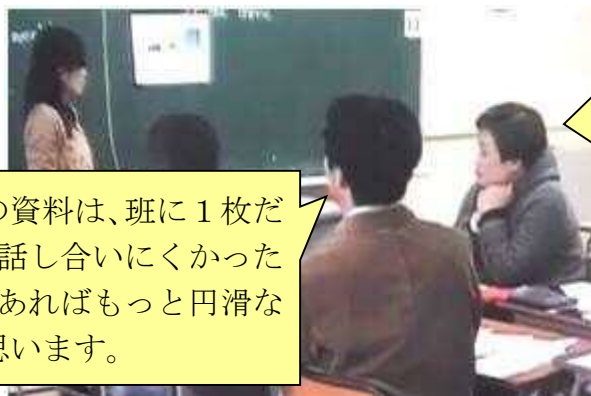
述べることが重要になります。

《役割に応じた意見の述べ方》

◎子供役

子供役 of 教師は、実際に学習活動に参加してみて感じたことを基に、授業の問題点や改善策を述べます。特に、発問、指示、説明といった教師の指導言のわかりやすさ、学習シートや教具の使いやすさ、板書のわかりやすさといった点から意見を述べると、授業者にとっては大変参考になります。

(ポイント：板書・発問・資料や学習シートのわかりやすさ、活動の円滑さ 等)



交流場面での資料は、班に1枚だけだったので、話し合いにくかったです。もう1枚あればもっと円滑な交流になると思います。

『～の中で』と範囲を表すときの、in と of の使い分けの説明が、生徒としてはわかり難かったので、「○○」というように説明した方がいいと思います。

◎分析役 (研究推進担当者)

分析役 of 教師は、本時のねらいと照らして、学習活動や手だて (研究主題に関わるもの) の有効性を検討しながら模擬授業を参観します。そこで、中心となる学習活動や手だて、発問が本時でねらう子供の姿を育てるものになりえているのか、どのようにすればよいのか、客観的な立場で意見を述べます。

(ポイント：全体の流れ、ねらいの達成、手だての有効性、見いだされた課題 等)



個々の生徒に役割をもたせ、生徒一人一人を大切にしている授業になっていると思います。

ただし、ねらいの達成につなげるためには、…する工夫が必要だと考えます。

授業研究の本時まで、今回の協議で出された課題や改善策を踏まえて、授業構想を見直しておいて下さい。

◎分析役 (教科主任・管理職)

特に中学校では、専門教科の先生 (もしくは管理職) から、教科の本質に関わる助言をいただくと内容が深まります。

※ 協議の中で、本時の各段階で目指す児童生徒の姿を具体化し、「授業参観シート」に反映することで、視点を明確にした授業参観を行うことができます。

授業参観シートを活用した授業参観

1 期待できる効果

効果	<ul style="list-style-type: none">・本時展開における各段階で目指す児童生徒の姿に照らし合わせながら授業を参観することができ、授業整理会においても目指す児童生徒の姿を中心に据えながら意見交流ができる。・授業者の指導言（発問や説明、指示等）や手だての有効性を◎・○・△や割合で表すことで、授業の成果と課題が明確となる。
----	---

2 準備物

準備物	<ul style="list-style-type: none">・授業参観シート
-----	--

3 進め方

基本的には授業参観シートを活用しながら個々の立場で授業を参観します。ただし、次のように3つのグループに分け、役割を分担してデータを収集することで、より詳細なデータが集まり、効果的な授業整理会を行うことができます。

役割	内容
授業者の指導言	発問や説明、指示、児童生徒の発言に対する受け答えなど、授業者の発言を中心に記録したり、分析したりする。
児童生徒の反応	発問に対する考えだけでなく質問や反対意見など発言はもちろん、うなずきや沈黙、戸惑いなど授業中における抽出児（抽出グループ）の様相を記録したり、分析したりする。
写真ビデオ	児童生徒や授業者の発言や表情、板書や教室環境などを写真やビデオを使って記録する。

ワークショップ型の授業整理会

1 期待できる効果

効果	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数のグループで協議を行うため、参加者全員が意見を出しやすくなり、協議を活性化することができる。 ・色付箋紙やワークシートを用いることで、参加者の考えを分類・整理したり授業の問題場面を焦点化したりしながら、授業改善に向けて効果的に協議を進めることができる。
----	---

2 準備物

準備物	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋紙…水色・黄・ピンクを1人各色5枚程度 ・ワークシート…1グループ1枚 ・太字水性ペン…黒・赤・青・緑など ・タイマー
-----	---

3 進め方

手 順	時 間	内 容
進め方の説明	5分	・司会者が協議のねらいや進め方を説明する。
授業者の自評	5分	・主眼の達成状況と手だての有効性を中心に自評を述べる。
質疑応答	5分	・参観者が授業者へ質問を行う。
付箋紙への記入	10分	・授業参観シートを基に授業を振り返り、授業の成果と課題を付箋紙に記入する。 ※ 1人5枚程度
グループ協議	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋紙をワークシートに貼りながら考えを出し合う。 ・同じ内容の付箋紙をペンで囲み、分類・整理する。 ・課題が多く集まった授業場面や内容を取り上げ、原因と改善策について話し合う。
全体協議	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで協議した内容を報告する。 ・各グループの報告を受け、司会者が全体で協議する授業場面や内容を選定し、原因と改善策について話し合う。 ・司会者が、協議のまとめをする。 ※ 必要に応じて、外部講師や管理職から指導助言を受ける。
振り返り	5分	・授業や協議会を受けて、今後の授業づくりに活かすために、「振り返りシート」に実践事項をまとめる。

【授業者の自評のポイント】

自評では、学習ノートや学習中の児童生徒の姿を基にしながら、本時の主眼の達成状況と手だての有効性を中心に述べるのが大切です。

自評の述べ方の順序

- ① 学習指導案を基に、本時の主眼の再確認をします。
- ② 本時の主眼の達成状況を、授業中の児童生徒の姿を基に説明します。
- ③ 各段階のねらいに迫る手だての有効性を授業中の児童生徒の姿で説明します。
- ④ 手だての有効性が不十分だった場合には、改善策を具体的に説明します。

【付箋紙への記入のポイント】

「教師の支援(ピンク)、子供の姿(黄)」、「よさ(ピンク)、課題(水色)、改善策(黄)」等、観点ごとに色分けをして記入するようにします。

また、付箋紙には、1枚の付箋紙に1項目ずつ記入し、その際、具体的かつ端的な文章で書くようにします。

付箋紙の記入例

(よさ)

自分の考えを進んで友達に説明し、友達の考えも聞くことができていた。

(課題)

数名の生徒は、課題に対して意欲的に取り組めていなかった。

(改善策)

子供の興味関心を高めるために、結果を予想する場面を設定する。

【効果的な協議の進め方のポイント】

ワークショップ型の授業整理会については、すでに取り入れている学校も多いと思います。しかし、意見が活発に出されても、授業の問題場面の原因を明確にして、具体的な改善策を見出すことについては課題も多いのではないかと思います。

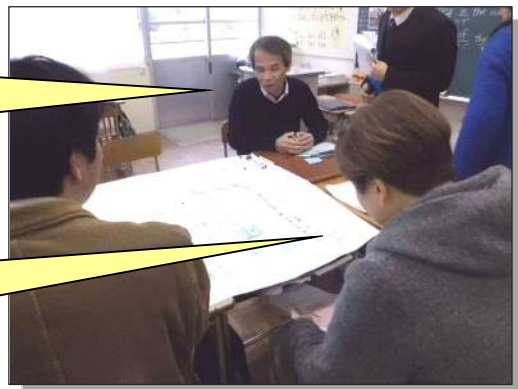
そこで、次のような手順で協議を進めると、効果的に具体的な改善策を明らかにすることができます。

【手順1 協議の中心の明確化】

- ① 付箋紙を1人1枚ずつワークシートに貼りながら考えを出し合います。その際、同じ内容の付箋紙を持っている者は、その都度、同じ場所に貼っていきます。
- ② 付箋紙に記述された内容について、不明な点があれば、お互いに質問をし合い、共通理解を図ります。

「学習意欲の温度差」と書いてありますが、そう感じた理由をもう少し詳しく説明してもらえますか。

交流場面で、○班と○班については、一部の生徒が班員の呼びかけにも応じず、交流に参加していなかったからです。



- ③ 同じ内容の付箋紙をペンで囲み、成果や課題を分類・整理し、協議の中心に据える問題場面を明確にします。その際、分類・整理した内容には、「教材の工夫」や「グループ・班での交流」と関連するキーワードを書き込みます。

右のワークシートを見てみると、青色の付箋紙（課題）が、協同学習の場面の「生徒への指示」に集中しています。そこで、生徒の活動を促すための「生徒への指示」を中心に協議を進めていきます。



【問題場面の明確化】

〔手順2 問題場面の原因の明確化〕

課題が多く集まった授業場面や内容について、その原因を話し合います。



班で話し合う際の机の配置にも原因があると思います。

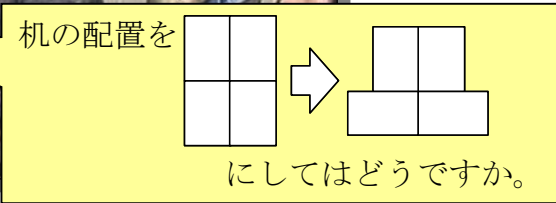
交流がスムーズにできなかったのは、交流の目的と方法を、生徒が理解できていなかったためだと思います。

〔手順3 改善の方向性の明確化〕

- ① 課題についての具体的な改善策を話し合います。

班の中で、役割分担をさせ、進行マニュアルにそって交流させてはどうでしょうか。

交流の前に「個で思考する時間」を確保したり、「交流の目的とやり方」を丁寧に説明したりするとよいのではないのでしょうか。



② グループ協議の結果を、発表者がワークシートを使って説明します。その際、よさについては簡単に触れる程度とし、課題と改善策を中心に説明します。また、前のグループと同じ内容は省略し、1グループ2分程度で説明します。

③ 司会者が、各グループの報告を受け、全体で協議する授業場面や内容を選定し、原因と改善策について話し合います。

各グループから出された意見で共通した〇〇について、焦点化して話し合います。



④ 司会者が、協議のまとめをします。その際、授業改善につなげるためには、授業の改善策や全体で取り組む事項を確認することが重要になります。また、必要に応じて、外部講師や管理職から指導助言を受けると、さらに研修を充実させることができます

授業改善として、〇〇をやっていくということによいですか。それぞれの授業で取り組みながら、さらに改善していきましょう。



⑤ 授業や整理会を受けて、今後の授業づくりに活かすために、「振り返りシート」に実践事項をまとめます。その際、授業改善につなげるためには、「いつ、何を、どのように」実践するのかについて具体的に記入することが大切です。

【授業参観シートを生かしたワークシート活用のポイント】

付箋紙によるワークショップ型の協議をする場合、次のようなワークシートがあります。学校の実態や目的に応じたものを選択することが大切です。

	見通す活動	振り返る活動	その他
よさ・成果			
課題			
改善策			

ア 【マトリクス法】
 あらかじめ協議の視点を定めて、その視点に集中して、よさや課題、改善策について協議します。
 付箋紙を貼り付ける枠が固定されているので、誰でも取り組みやすくなります。

	学習活動	ねらい・手だて	評価
導入			
展開			
終末			

イ 【拡大指導案法】
 あらかじめ本時指導案を拡大コピーしておき、直接付箋紙を貼り付けます。
 指導案と実際の授業を対比しながら進めることができます。

久留米市教育センター調査研究 学力向上班

岡 佐智代（田主丸小 主幹教諭）	石橋 敬嗣（学校教育課 指導主事）
西田 俊輔（弓削小 教諭）	中村 典子（学校教育課 指導主事）
合志 明彦（屏水中 指導教諭）	馬渡 茂人（教育センター 指導主事）
渡邊 絵里（諏訪中 教諭）	東野 淳（教育センター 指導主事）

